

葛城市當麻複合施設整備基本計画（中間報告）
<概要版>

1.はじめに

旧當麻庁舎



耐震性や老朽化等の課題から除却を判断
令和5年2月に解体工事完了

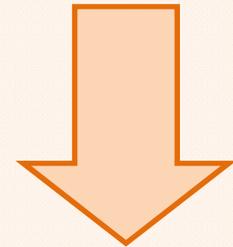
當麻文化会館
當麻図書館



老朽化が進行



當麻庁舎周辺エリアの拠点
公共施設マネジメントの観点



- ・當麻文化会館を全面改修
- ・當麻庁舎・文化会館・図書館を複合化
- ・新たなシンボルとなる施設の整備

2. 複合化について(比較検討の経緯)

| 案 | 検討概要 | 費用 | |
|---|--|----------------------|---------------------------------|
| | | 初期費用 (今後5 年程度) | 総費用 (令和22 (2040) 年頃まで) |
| ① | 當麻庁舎(旧分庁舎)→倉庫 図書館→そのまま 文化会館→庁舎と複合化 総面積:4,800㎡ | 650 百万円 | 5,210 百万円 |
| ② | 當麻庁舎(旧分庁舎)→そのまま 図書館→そのまま 文化会館→そのまま 総面積:4,800㎡ | 580 百万円 | 5,180 百万円 |
| ③ | 當麻庁舎(旧分庁舎)→倉庫 図書館→ <u>庁舎</u> 文化会館→ <u>図書館と複合化</u> 総面積:4,800㎡ | 900 百万円 | 5,410 百万円 |
| ④ | 當麻庁舎(旧分庁舎)→倉庫 図書館→そのまま 文化会館→そのまま 新庁舎→ <u>小規模新築</u> 総面積:5,500㎡ | 1,030 百万円 | 5,430 百万円 |
| ⑤ | 當麻庁舎(旧分庁舎)→解体 図書館→解体 文化会館→ <u>庁舎・図書館と複合化(全面改修)</u> 総面積:3,500㎡ | 2,180 百万円 | 2,810 百万円 |
| ⑥ | 當麻庁舎(旧分庁舎)→倉庫 図書館→解体 文化会館→そのまま 新庁舎→ <u>中規模新築</u> 総面積:5,500㎡ | 1,540 百万円 | 4,800 百万円 |

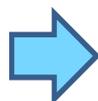
【検討案⑤のポイント】

- ・初期費用が大幅に必要
(約20億円)
- ・長期的には改修・建替費用等
が抑えられ、総費用(20年間
で約30億円)は大幅に削減
可能
(各施設を建替えた場合、20
年間で約50億円の見込み)
- ・全面改修をすることで、建替え
より安価、迅速、二酸化炭素
排出削減で複合化が可能
(解体工事が不要のため)
- ・外観も変更可能なため、當麻
庁舎周辺エリアの新たなシン
ボルとなりうる
- ・現施設の機能が集約されるこ
とで、既存施設跡地の検討の
可能性が拡大

3. 全面改修について

古い市庁舎を最新の図書館に改修した事例

真庭市/真庭市立図書館



建替えではなくとも、全面改修でここまでできる可能性がります。

4. 第1回市民ワークショップ

- 実施日：令和4(2022)年10月16日
- 実施内容：地域の特徴を確認しよう



5. 各種分析・調査・課題の把握（第1回ワークショップより） (計画エリアの分析)

<分析のまとめ>

- 施設の再編という機会を活かし、子どもたちや子育て世代を対象とした特色を取り入れつつ、高度化・多様化するニーズに応える整備方針とすることで、「弱み」をカバーし、市の政策にマッチした「強み」に変換することが可能
- 當麻文化会館を活用し、當麻庁舎、當麻図書館を複合化した全面改修の手法を採用することで、費用等を抑えつつ施設を有効活用するという「強み」にすることが可能

6. 市民アンケート

令和4(2022)年6月 / 配布数：1,600 / 回収数：673

「セレンディピティ」 主人公はあなたです！

葛城市に新しく生まれる複合施設は、未来を担う子どもたちを中心に、誰もが気軽に立ち寄れる、居心地の良い場所にしたいと考えています。複数の要素が隣り合った特徴を最大限に生かした、「偶然の出会いや発見(セレンディピティ)」が生まれる施設を目指しています。



2 のんびり

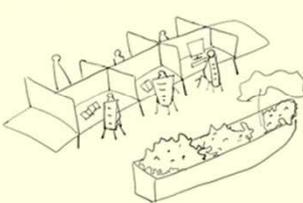
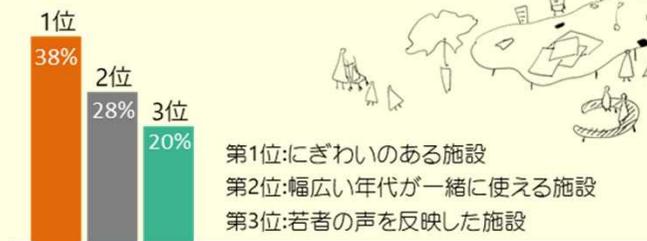
※グラフは「當麻庁舎周辺施設の整備に関するアンケート調査」から一部抜粋。

ちょっと立ち寄るつもりが「ついつい」本を読みふけったり、「たまたま」会った友達とゆっくりお茶することになるかも。

1 発見

住民票の待ち時間にふと手をおぼした本が「運命の一冊」になるかも。

Qどんな施設・エリアになってほしい？



Q図書館はどんな空間になってほしい？

- 第1位:会話・飲食・学習できる環境
- 第2位:本が見つけやすい空間
- 第3位:静かに読書・学習できる
- 第4位:色々な閲覧室の充実



セレンディピティとは？

「偶然に思いがけない幸運な発見をすること」を意味する言葉で、「セレンディップの3人の王子たち」という物語が語源となっています。

3 チャレンジ

ふと目にとまった教室が「面白そうかも」や「試してみたい」につながるかも。

Qどんな部屋があると楽しんだらう？

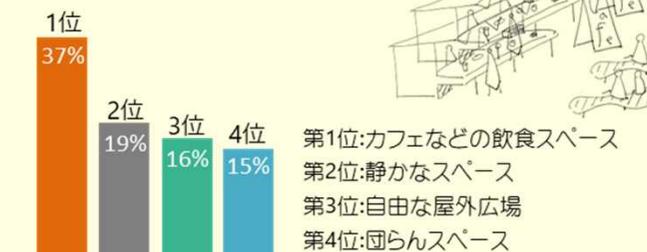
- 第1位:安全な室内運動ができる
- 第2位:声・音を気兼ねなく出せる
- 第3位:目的によってカタチを変えられる
- 第4位:色々な部屋と兼用できる



4 ふれあい

接点のなかった人と一生の友達になるような出会いがあるかも。

Qどんな共有スペースがあったらいい？

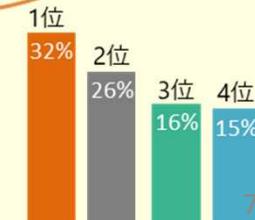


5 学び

たまたま触れたピアノや工作道具がきっかけで、将来はプロになるかも。

Qホールにはどんな設備・機能があたらいい？

- 第1位:遊び場と兼用できる座席収納型
- 第2位:日常使いができる簡易な設備
- 第3位:ピアノが使えるなどの体験・体感型
- 第4位:プロ向けの設備



7. 第2回市民ワークショップ

- 実施日 : 令和4(2022)年11月13日
- 実施内容 : 出会いの場を検討しよう



8. 各種分析・調査・課題の把握（課題の抽出と検討事項）

（市民アンケート及び第2回ワークショップより）

施設全体

- 長寿命化に向けた大規模改修が必要 ○
- 遅い時間まで利用可能で、気軽に立ち寄れる施設
⇒運営・管理と並行して検討 ★
- 時代のニーズの変化に合わせられる可変性・可逆性 ★
- カフェやイベントスペース等の地域交流のハブとなる機能
⇒スペースを確保のうえ運営・管理と並行して検討 ★
- 子どもたちが天候に左右されず集えるスペース
⇒他機能の面積を圧迫しない規模で検討 ○
- 外の環境（テラス等）を取り込んだつながりのある空間 ○
- 子どもが自由に過ごせ、親も休息を取れる場所 ○
- 誰にとっても使いやすいユニバーサルデザインに配慮 ○
- 直営、指定管理の比較等を含めた運営方法の検討 ★

生涯学習

- 中央公民館・新庄文化会館との役割分担
⇒既存の活動の継続に加え、活動のさらなる展開や新しい
- 活動ニーズにも配慮した部屋構成 ○
- 部屋の大きさや種類によって稼働状況とのバランスが悪い
⇒適正な室数・広さの検討 ○
- 活動の種類毎に多目的に利用可能な部屋が望ましい ○
- 使用しないときは会議室や自習室としても共用 ○
- 従来の活動を維持し、住民が自主的に参画できる運用方法
⇒専用スペースを含め、運営・管理と並行して検討 ★
- 活動内容がわかりやすく、気軽に利用しやすい環境
⇒情報発信ツールを検討 ★
- 定期的なイベントや講座の企画 ★

庁舎

- 総合窓口課を軸に行政サービスを維持 ○
- 子育て支援に関する部局・窓口との連携強化 ○
- 防災機能の充実 ○
- 相談室、会議室の不足
⇒部屋の確保及び他室との共有方法を検討 ○
- 20年後を目安に新庄庁舎と合わせた庁舎のあり方を検討
⇒公共施設等総合管理計画に従い、新庄庁舎が更新を迎える時期を目安に検討を開始 ○

図書館

- 新庄図書館との役割分担
⇒公共図書館としての社会的役割に加え、本がより使われることを目標に、子どもたちに向けた本と出合える仕組みの検討等、市民の新たな期待に応える施設として整備 ○
- ゆとりある書架の配置
⇒開架・閉架のバランスや什器への工夫を検討 ★
- 蔵書数が増加する一方、本のダメージが進行している
⇒本の新陳代謝を上げる方法を検討 ★
- ゆとりある閲覧室と自習室が常設されていない
⇒スペースの確保または他室との空間共有を検討 ○
- ある程度空間を仕切れるおはなしの部屋（スペース） ○
- 従来の静寂な場と自由度の高い新しい場の共存
⇒静かな閲覧室として本と向き合う空間を確保 ○
⇒飲食や会話が可能で緊張感のない空間 ○
- 親子で滞在できる図書館
⇒子ども向け空間の充実やその他機能との連携 ○

ホール

- 100～200人までの利用が多い
⇒ニーズに見合った適正な規模に最適化 ○
- 設備の老朽化、映画鑑賞や発表会を開催できる場
⇒規模や用途に見合った設備仕様の検討 ○
- 多目的な利用を可能に
⇒間仕切りの可変性や、床や座席の仕様、その他機能と共存できる音環境等を検討 ★
- 子どもの遊び場やイベントスペースとしても利用可能
⇒開放性や隣接する機能配置の検討 ★

<凡例>

本計画で設計への反映を求める項目 ○

設計または運営検討段階で引き続き検討が必要な項目 ★

9. 各種分析・調査・課題の把握を踏まえた、 新しい複合施設が目指すあり方



1 気がつけば愉しんでいた、
そんな場所と空間を作ります。



2 時間の流れの遅い場所でもあります。



3 空間の新陳代謝を進めます。



4 場と空間に余白を与えます。



5 本が、あらゆる人や場所との結節点になります。



6 本の新陳代謝を進め、差し出し方を整えます。

《 整備方針 》

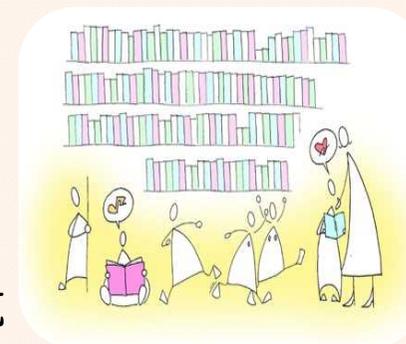
施設全体（偶然の出会いや発見（セレンディピティ））

- 気軽に心地よく滞在できるひらかれた場所
- 複数の要素が混ざり合い、結びつくような、地域の人と活動を支える場所



図書館

- 読書を体感・発見できるような仕掛け
- 心が動く本の差し出し方
- 普段とは異なる時間の流れが感じられる読書環境



生涯学習（活動の継続と共有の場）

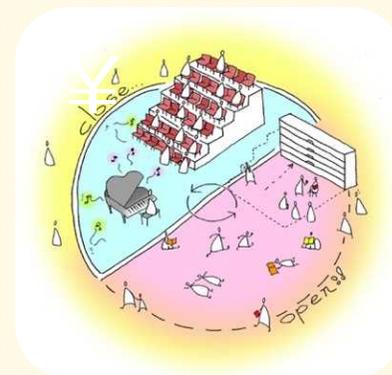
- これまでの活動が引き続き継続
- 活動の見える化とニーズに合わせた可変性



《 整備方針 》

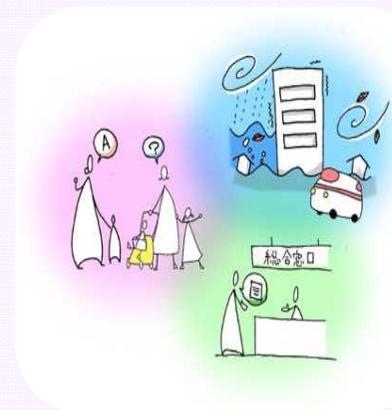
ホール（交差点となるひろば）

- 使いやすい規模への縮小
- 多目的な活用を想定した設え
- 多くの方が同時に利用していただける工夫



庁舎（行政サービス拠点の継続）

- 当麻庁舎としての行政サービスの継続
- 子育て支援に関する窓口との連携強化
- 安全・安心に向けた機能の充実



環境配慮

- 「ゼロカーボンシティ(令和3年12月)」に向けた地球環境への配慮

10. 条件整理の手順

(1) 機能の融合と性能の最適化

専門性の高い部屋を他の用途でも使用できるように工夫します。



コンサートホール



会議室



調理室



工作室



多目的に使える



読書や自習に使える



昼食や歓談に使える



DIYや会議に使える

(2) 従来の空間に新しい要素を混ぜる

複合化のメリットを活かし、従来の機能は維持しながら、新しい機能が混ざり合い、共存した計画とします。

(3) 複合施設における本の役割

館内では本を様々な位置にレイアウトし、図書館以外の目的で訪れた人も、自然と本を手にとれるような計画とします。



シーンに合わせて
間仕切りを可動する



多目的に使える場所



図書の特設コーナー



館内イベント

(4) 共用スペースの充実

共用スペースを共有化した余白により、子どもたちが自由に過ごせる場、多世代が交流できる場、活発な市民活動を促すイベントスペース等、新しい空間を充実させることを検討します。

< 共用スペースの活用 = 新しい空間の充実 >

共用スペースの共有化
による面積の最適化

(共用スペース)
廊下
バックヤード
トイレ
ロビー 等



子どもたちが遊べる
新しい空間



市民活動を行う
イベントスペース



活動と人をつなぐ
ギャラリー



カフェ等の
みんなが憩える場

11. 諸室の計画

○現在の3施設の主な諸室

| 用途 | 現施設 | 現室名 | 面積 |
|-----|--------|-----|------|
| ホール | 當麻文化会館 | ホール | 570㎡ |
| | | 控室 | 38㎡ |

規模等の
適正・共用化

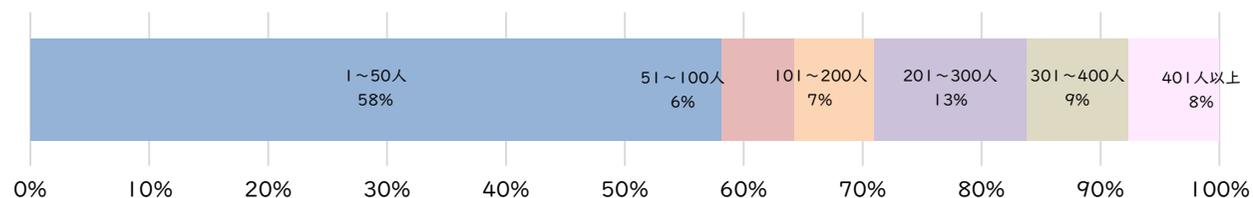
○改修後の諸室 (想定)

※現在の利用状況により算定

| 用途 | 室名 | 面積 | 定員 | 想定される用途・備考 | 想定稼働率 |
|-----|---------|------|------|------------|-------|
| ホール | 多目的スタジオ | 250㎡ | 200人 | 音楽・講演・運動 | 40% |

※現時点で確定したものではありません。

ホールの利用状況



※平成30(2018)年度

※1日3コマ(午前、午後、夜間)×開館日数(282日)=100%として利用率を算出

ホール利用は、100人以下の利用が全体の64%、200人以下の利用では71%を占めています。30人前後をピークに、50人以下の利用が大半となるため、室内を可動間仕切りで3分割にすることにより、少人数で同時に使用可能な部屋とします。防音の部屋とすることで、ダンスや軽音等にもご利用いただけます。

新しい複合施設の参考にしたい諸室の使い方について事例を紹介します。

多目的（音楽・運動）



ホール（可動座席設置時）



ホール（可動座席収納時）



多目的 ⇔ 運動

※現在の利用状況により算定

○現在の3施設の主な諸室

| 用途 | 現施設 | 現室名 | 面積 |
|------|--------|-------------|------|
| 会議 | 當麻文化会館 | 2階大研修室 | 132㎡ |
| | | 2階中研修室 | 84㎡ |
| | | 2階小研修室 | 40㎡ |
| | | 2階団体交流室 | 31㎡ |
| | 當麻図書館 | 2階会議室 | 115㎡ |
| | | 2階ミーティングルーム | 25㎡ |
| | 當麻庁舎 | 1階会議室 | 20㎡ |
| 生涯学習 | 當麻文化会館 | 3階音楽室 | 74㎡ |
| | | 3階セミナー室 | 63㎡ |
| | | 3階メディアルーム | 63㎡ |
| | | 3階調理実習室 | 84㎡ |
| | | 3階和室 | 59㎡ |
| | | 3階創作室 | 58㎡ |
| | | 3階陶芸室 | 52㎡ |

○改修後の諸室（想定）

| 用途 | 室名 | 規模 | 想定される用途・備考 | 想定稼働率 |
|-------------|------------|------|------------|---------|
| 生涯学習 多目的 | 共用活動スペース1 | 大 | 会議・講演等 | 40%~50% |
| | 共用活動スペース2 | 中 | 会議・その他 | |
| | 共用活動スペース3 | 小 | 会議・その他 | |
| | ミーティングルーム1 | 中 | 会議・その他 | 40%~65% |
| | ミーティングルーム2 | 小 | 会議・その他 | |
| | ミーティングルーム3 | 小 | 会議・その他 | |
| | たたみスペース | 60㎡ | 茶道・着付・将棋等 | 30% |
| | ものづくり工房 | 60㎡ | 工作・陶芸・絵画等 | 35% |
| | キッチンスペース | 40㎡ | 調理・その他交流等 | 15% |
| ホール | 多目的スタジオ | 250㎡ | 音楽・講演・運動 | 40% |

規模等の
適正・共用化

※再掲

※現時点で確定したものではありません。

現在ある会議室や文化会館の諸室は、改修後の複合施設では部屋数が減りますが、機能の最適化と共用化により、概ね現在と同様の利用が維持できると考えています。さらに、間仕切りや貸出し時間枠の工夫等により、これまで以上に多くの方にご利用いただくと想定しています。

(共用化の例)

- ・ 共用活動スペースに可動間仕切りを設けることで、他室が満室の時でも使用可能に。
- ・ ミーティングルームを庁舎・図書館の会議等で利用する他、休日・夜間は一般開放・自習室として使用可能に。
- ・ たたみスペースを市民活動に使用しない時は、閲覧室や休憩室、読み聞かせの場としても使用可能に。
- ・ ものづくり工房使用時でも、共用活動スペースに流し台を設けることで、華道や絵画でも使用可能に。
- ・ キッチンスペースで料理教室が行われない時は、ランチルームや集いの場としても使用可能に。

新しい複合施設の参考にしたい諸室の使い方について事例を紹介します。

専門的な部屋



和室 ⇄ 閲覧スペース



工作室 ⇄ フリーのDIY室



内部活動が見える間仕切り



調理室 ⇄ ランチルーム・売店

○現在の3施設の主な諸室

| 用途 | 現施設 | 現室名 | 面積 |
|-----|-------|---------|------|
| 図書館 | 当麻図書館 | 1階開架書庫 | 175㎡ |
| | | 1階児童開架室 | 200㎡ |
| | | 1階閲覧席 | |
| | | 1階ラウンジ | |
| | | 屋外閉架書庫 | 25㎡ |

規模等の
適正・共用化

○改修後の諸室 (想定)

| 用途 | 室名 | 面積 | 定員 | 想定される用途・備考 |
|--------------|---------|------|-----|------------------------|
| 図書館 子ども図書 | 一般図書エリア | 420㎡ | 70席 | 20,000冊 (閲覧スペース等含む) |
| | 児童図書エリア | 240㎡ | | 15,000冊 (閲覧スペース等含む) |
| | 閉架書庫 | 220㎡ | | 70,000冊 |
| | 静かなスペース | 40㎡ | 20席 | 静かに読書、学習をするスペース |

※ 現時点で確定したものではありません。

現在の約100,000冊の蔵書（開架約70,000冊、閉架約30,000冊）については、ダメージの進行したものも多くあり、新陳代謝を進めつつ、新しい複合施設へ移設を行います。

ゆったりとした書架配置とすることで回遊性を高め、閲覧席の充実や空室の開放により、心地よく滞在できる空間とします。閉架書庫の一部を一般開放する等、現状と変わらない検索性を維持する方法についても検討します。

また、選書や展示方法等の本の差し出し方を整えることで、ただ多くの本を詰め込むのではなく、より手に届きやすくなるよう工夫を行います。

共用の閲覧スペースについては、会話や軽飲食、自習等が可能な、今までよりもひらかれた運用について検討する予定です。

新しい複合施設の参考にしたい諸室の使い方について事例を紹介します。

図書館



手に取りたくなる本のレイアウト



おはなしの部屋 ⇄ 子ども図書



賑やかな閲覧スペース ⇄ 広場



図書館（静かな閲覧・学習スペース）

○現在の3施設の主な諸室

| 用途 | 現施設 | 現室名 | 面積 |
|------|--------|--------------------|------|
| 庁舎関係 | 當麻庁舎 | 執務室 | 130㎡ |
| | | 教育長室 | 20㎡ |
| | | 待合スペース | 40㎡ |
| | | 臨時窓口 (相談スペース含む) | 50㎡ |
| | | 相談スペース | 30㎡ |
| 他 | 當麻文化会館 | 適応指導教室 | 80㎡ |

| | |
|-----------|-------|
| 3施設のその他面積 | 2622㎡ |
| 合計 | 4880㎡ |

約880㎡減

規模等の
適正・共用化

○改修後の諸室（想定）

※ 現時点で確定したものではありません。

| 用途 | 室名 | 面積 | 想定される用途・備考 |
|------|--------------|------|----------------------------------|
| 庁舎関係 | 執務スペース | 210㎡ | 国交省「新営一般庁舎面積算出基準」による算出 |
| | 教育長室 | 30㎡ | |
| | 総合窓口課 | 40㎡ | 現状程度 |
| | 待合スペース | 50㎡ | 現状程度 |
| | 臨時窓口コーナー | 10㎡ | 現状程度 |
| | 相談スペース | 25㎡ | 現状程度、プライバシーに配慮する |
| 他 | 適応指導教室 | 80㎡ | 現状程度 |
| 共用部 | 事務エリア | 140㎡ | 図書・生涯学習用 |
| | トイレ・給湯室・授乳室等 | 260㎡ | |
| | 倉庫等 | 230㎡ | |
| | エントランス等 | 270㎡ | エレベーターホール等含む |
| | 新しい空間 | 250㎡ | 子育て支援スペースやカフェ等のコミュニティスペース、ギャラリー等 |

| | |
|--------|-------|
| 小計 | 3330㎡ |
| 廊下・機械室 | 670㎡ |
| 合計 | 4000㎡ |

現當麻文化会館の延床面積
3554.8㎡から約500㎡の
増床を含めて検討します。

庁舎については、総合窓口を利便性の高い場所に確保しつつ、執務スペースを適正化します。

共用スペースについては、共用できるものも多くあり、誰もが使いやすい設備に配慮しつつ最適化を行います。

複合化により生まれる豊かな共用スペースには、新しい空間として、市民ニーズに応える新たな機能を付加できると想定しています。

子どもたちが天候に左右されずに遊べるスペースや、カフェ等の憩いのスペース等、市民にひらかれた新しい場所についても検討します。

新しい複合施設の参考にしたい諸室の使い方について事例を紹介します。

庁舎



総合窓口

新しい空間



コミュニティスペース



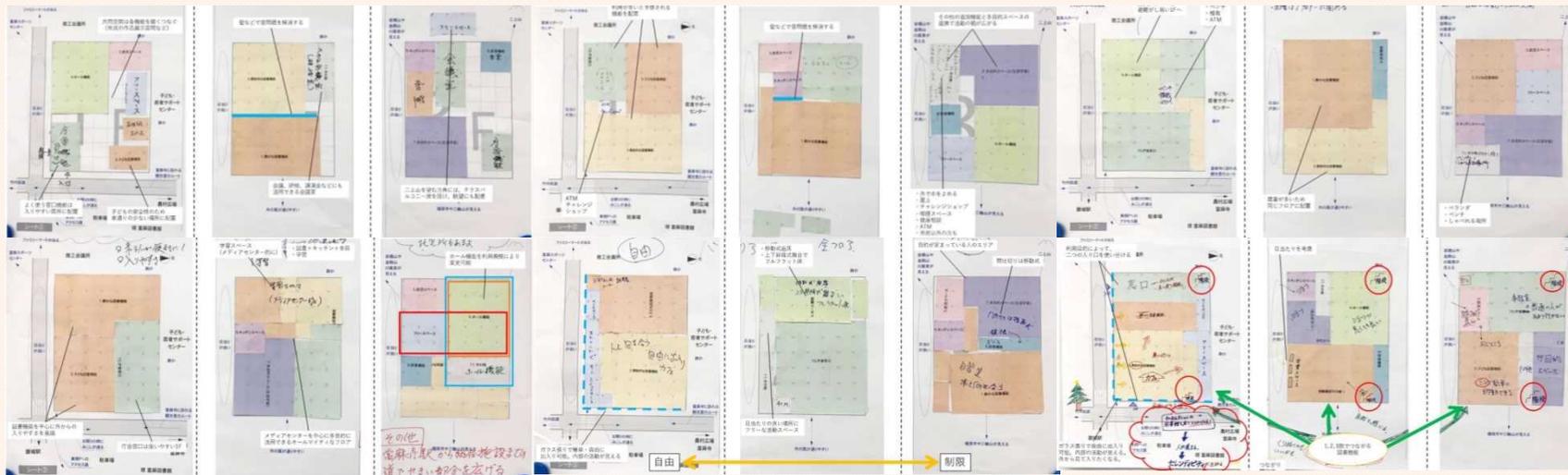
活動が共有できる空間



小さな子どもたちにも対応した遊び場

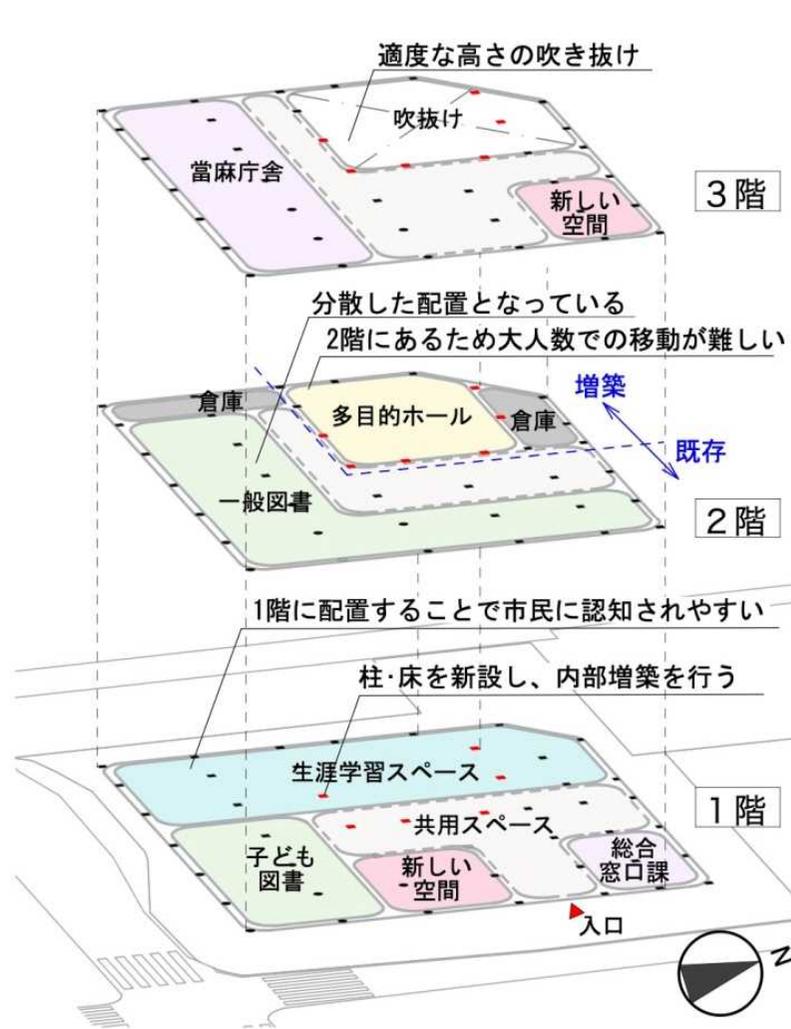
12. 第3回市民ワークショップ

- 実施日 : 令和4(2022)年12月11日
- 実施内容 : 施設機能案を検証しよう

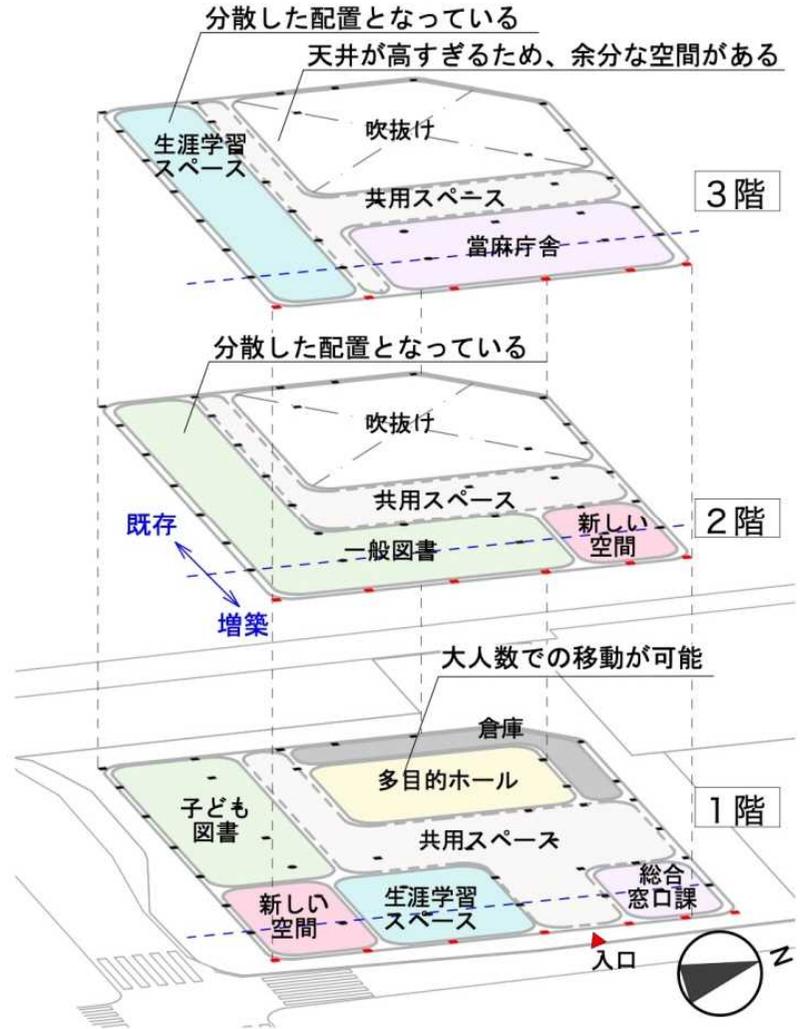


13. 機能の配置バリエーション案

内部増築（増床）を行った場合の配置案

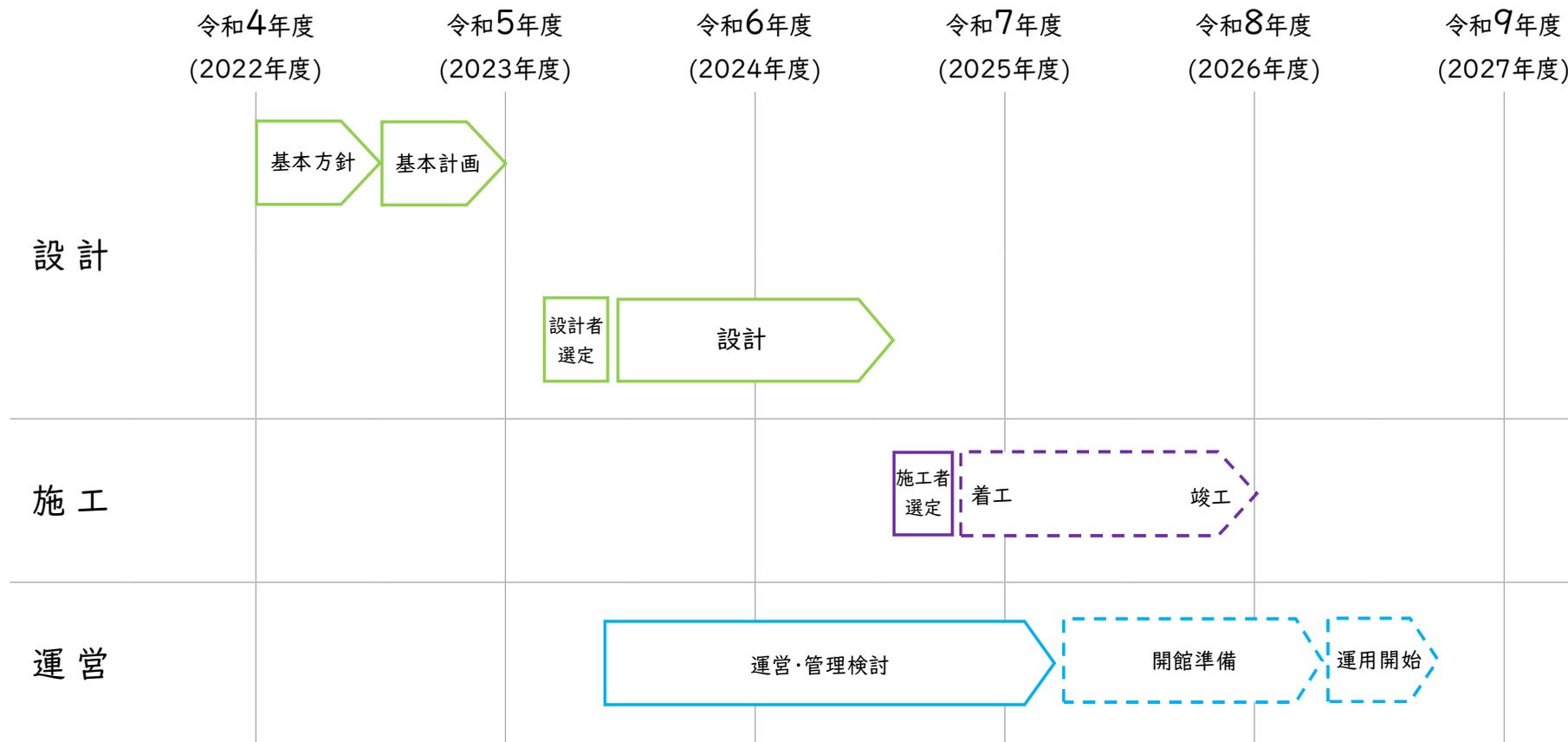


外部増築を行った場合の配置案



※ 現時点でのイメージであり、今後の設計、運用計画段階で変更になる可能性があります。

14. 整備スケジュール



テーマ「地域の特徴を確認しよう」

①まちづくりって楽しい



「元気なまちってなんだろう？」
「これからの公共施設はどんなものが望ましいだろう？」
今まで知らなかった施設に対する考え方、全国の事例などの説明を聞き、バランス感覚が大切だと知ることができました。
まちづくりは行政だけがやるものではない、そう考えるきっかけとなりました。

②キャラクター設定



自分自身もしくは架空のキャラクターを設定し、當麻エリアのどこで何をするかをグループで共有することで、まだ知らなかった地域の再発見と様々な人がいることを再確認し、複合施設が完成した後のイメージを膨らませました。

未来の葛城市は
みんなのもの！

第一回 10.16 [SUN] 14:00~17:00

葛城市に新しい魅力を創造する。
これまでの歴史とこれからの歴史、みんなが葛城市を考えるワークショップ。



③行動を想像しよう



設定したキャラクターになりきり、どの施設で、どのお店で、どの公園で何の活動をするのか。周りの人と話せばこれまでと一味違う考え方が出てくる。當麻エリアのポテンシャルを探りました。

キャラクター同士を掛け合わせた新しい出会い。グループ内で初対面の人も多い状況でしたが、楽しい出会いの可能性を発見できました。



④新しい出会い！

第二回テーマ
「出会いの場を考えよう」

日時
11月13日(日) 14:00~17:00

場所
當麻文化会館

※第一回ワークショップ
参加者数は”30名”でした。

次回ワークショップ

⑤グループ発表！



ワークショップの最後には各グループで話し合っただけで決めたグループワークのタイトルとその概要の発表を行いました。どのグループも色々な考え方がある、でもどれも間違いではない。たくさんの人の意見一つひとつが未来の葛城市をカタチ作るのだと感じました。

テーマ「出会いの場を検討しよう」

①前回の振り返り



第一回ワークショップでは、架空のキャラクターを設定し、客観的立場から當麻磐城エリアでの活動と、そこから生まれるまだ知らない人やものとの出会いの可能性を考えました。新しい複合施設が、私たちの行きたいと思う「場」になれば、まちはもっと元気になる可能性が高いと感じました。

未来の葛城市は みんなのもの！

②「場」と「こと」



自然と人が集まる魅力的な施設（＝場）にするために必要な「こと」とはなにか。立派な建物が完成しても、使いたいと思う人がいなければただのハコになってしまいます。自分たちの活動や思いを考えることで、市民に真に求められる「場」を考える作業でした。

第二回 11.13 [SUN] 14:00~17:00



③「こと」×「こと」 = 相乗効果



作業2で整理した「こと」は相性の良い組み合わせで相乗効果生まれるのではないか。使い方や自由度を工夫することで、今までにない「出会いや発見」が見つかりました。「休憩スペース」×「ストリートピアノ」＝「小さなりサイタル」!?

全国の複合施設の事例から班ごとのイメージに最も近い写真を選び、各班の施設像を想像しました。事例を知ることで具体的なイメージが浮かび始めました。

④公共施設での「出会いや発見」

第三回テーマ 「施設機能案を検証しよう」

日時 12月11日(日) 14:00~17:00

場所 當麻図書館

※第二回ワークショップ 参加者数は”37名”でした。

次回ワークショップ

⑤グループ発表！



ワークショップの最後には、各班で検討した魅力的で自然と人が集まりたくなる複合施設のイメージとその概要の発表を行いました。各班で考えた施設像には共通した想いも多く、これからの時代にあるべき公共施設の姿が共有できました。

葛城市に新しい魅力を創造する。これまでの歴史とこれからの歴史、みんなが葛城市を考えるワークショップ。

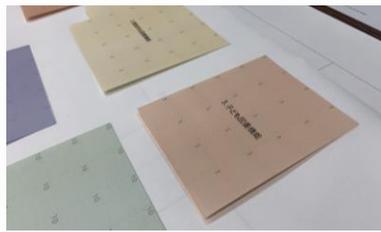
テーマ「施設機能案を検証しよう」

① 前回の振り返り



第三回ワークショップ冒頭では前回の振り返りとして、各班で出た意見を施設機能としてまとめた資料の説明を行いました。第二回目までは自分のやりたい活動を考える作業でしたが、第三回目では活動を実現させる場を考える機会です。市民のアイデアから施設機能のあり方を汲み取る、これからの時代の公共施設整備の進め方です！

② 機能の整理



第三回ワークショップでは、前回までの意見からまとめた11の施設機能を現状の當麻文化会館規模を想定した枠内に納めていく作業を行いました。どの階に何の機能があるといいか。どうしたら利便性が高まるか等、まずは大きさにとらわれず各階のコンセプトを整理しました。

未来の葛城市は みんなのもの！

第三回 12.11【SUN】 14:00~16:30



③ 機能を配置する



②で整理した各階の大きな機能を枠内に配置していきま。枠に納まらない機能を上手く配置するために、分散させても機能するもの、分散させることでより高い効果が発揮されるものなど相互の関係性を考慮しながらはさみで形や大きさを調整しました。

出来上がった各階の配置案をもとに使い方、運用方法を提案しました。施設を使うことを想像しながら作業を進めることで、新たな気づきも生まれ、徐々にカタチになっていくことでより複合施設のイメージが湧いてきました！

④ 配置した機能の 使い方提案



葛城市に新しい魅力を創造する。これまでの歴史とこれからの歴史、みんなが葛城市を考えるワークショップ。

「市民説明会」

日時 2月23日(木・祝) (予定)

場所 當麻文化会館 (予定)

※第三回ワークショップ 参加者数は”34名”でした。

今後のスケジュール

⑤ グループ発表！



ワークショップの最後には、各班で検討した複合施設の配置案と使い方の概要の発表を行い意見を共有しました。

「今後はみなさんの目指す施設像を読み解きながら、不足している要素やさらなる可能性について検討を深めつつ、葛城市の未来を担う子どもたちを中心に、誰もが気軽に立ち寄れる居心地の良い場所になるよう計画案を作成してまいります。」